

「多能工化推進」

▽：「安定した収益基盤を築きながら、事業をさらに発展・拡大すべく、生産性向上や働き方改革への取り組みを実施している」と話すのは、ステンレス鋼

線のトップ

メーカー、

日本精線の

新員元社

長。同社は

中期経営計



った。今中期では同じ仕組みを金属繊維部門に導入する。生産

管理や仕掛品の見える化を推進するとともに、品質・識別管理の向上を図る。また、昨年に導入したフレックスタイム制度を全社に拡大展開していくとともに、労働時間管理

のシステム導入を行う」という。

▽：「東大阪工場、枚方工場ともにフル生産ではなくな

画「NSR20」の2年目に入り、高機能独自製品のさらなる品質の向上を図るとともに、労働生産性の向上にも着手している。

ったが、個別のラインごとに生産の濃淡があるため、金属繊維とステンレス鋼線の製造現場で部門間の垣根をとりはらい多能

▽：「前中計で、ステンレス鋼線事業のシステム刷新を行い、品質・識別管理の自動化をはじめ生産性向上に一定の成果があ

工化を図っている。フレキシブルな人員配置でさらなる労働生産性の向上と働き方改革に対応する」と語る。

